

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	①-21	実施計画番号	138	事業開始年度	25
事務事業名	焼山地区活性化事業 (旧「奥入瀬焼山地区の活性化」)			事業終了年度	未定
担当課名	観光推進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	「花」「温泉」「アート」をキーワードに策定された奥入瀬焼山活性化基本計画に基づき、実施計画や設計を行い、各種活性化事業を展開する。				
事務事業の目的	潜在的な観光資源を有し、県南地方や八甲田・秋田の各方面へ通じる交通の要衝である焼山地区の活性化を推進し、観光産業の振興を図る。				
実施状況	焼山地区活性化基本計画及び焼山地区活性化事業実施計画を策定し、十和田湖温泉スキー場の花の景観整備や、温泉郷の景観整備に向けて、地域の方々との意見交換を3回開催し、協議を進めた。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	96	40	72
	人件費(千円)	3,456	1,440	2,592
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		21,923	0	24,929

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	地域住民との意見交換会の実施				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		回	3	3	3	
	活動指標名②	花を活用した景観整備(シバザクラ、ヒマワリ、雑草処理等)				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		m <sup>2</sup>	11,266	0	1,100	
成果指標	成果指標名①	花を活用した景観整備(シバザクラ、ヒマワリ、雑草処理等)				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		m <sup>2</sup>	目標値	11,266	11,844	1,100
			実績値	11,266	0	
			達成度(%)	100%	0%	
	成果指標名②	焼山・八甲田宿泊者数				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
	人	目標値	170,000	170,000	170,000	
		実績値	111,903	95,000		
		達成度(%)	66%	56%		

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b> 焼山地区の活性化は、地域住民・議会等からも要望があり、政策的な位置づけである。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	C	0	1	成果向上の余地 <b>5 / 6</b> 他の政策的な事業の優先順位、事業手法・運営の在り方などについて、地域住民、市民、議会等から理解をえながら進めるため、慎重に進める必要がある。目標値に対する実績値は低い。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	C	0			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b> 当該事業は政策的な事業であり、焼山地区活性化基本計画等の中で検討される事案であることから、市単独の事業として進められることが必要である。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b> 当該事業の目的は、当該地区の魅力向上が他の地域へのさらなる誘客に発展するものと位置付け、観光産業の振興、雇用の場の確保を図ることであり、地域周辺も含めた活性化に結びつけるものである。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>15 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>5 / 20</b>

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **15** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **5** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

**有効性を改善して継続**

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

指標に掲げる目標が達成されていない。  
事業着手の優先順位が整理されていない。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

焼山地区活性化基本計画及び同事業実施計画に基づき、各種活性化事業を展開する。